

専修学校による地域産業中核的人材養成事業

令和3年度予算額
(前年度予算額)

725百万円
962百万円)



背景・課題

- ◆ 産業や社会構造の変化、グローバル化等が進む中で、経済社会の一層の発展を期すためには、経済再生の先導役となる産業分野の雇用拡大や人材移動を円滑に進めるとともに、個人の可能性を最大限発揮し、日本再生・地域再生を担う中核的役割を果たす専門人材の養成が必要不可欠。
- ◆ また、実際の教育現場では、専門学校における学びの質を高めるため、より早い時期からキャリア意識、専門知識を涵養できるようなアプローチが必要との声がある。

経済財政運営と改革の基本方針2020（令和2年7月17日閣議決定）

第3章 3. 「人」・イノベーションへの投資の強化

- (1) 課題設定・解決力や創造力のある人材の育成 ②大学改革等

高等専門学校の高度化・国際化、専門職大学、**専門学校**、大学院等における**企業等と連携・協働した社会のニーズに応える実践的な職業教育**や博士課程教育をはじめとする高度人材教育の構築等を推進する。

成長戦略フォローアップ（令和2年7月17日閣議決定）

1. 新しい働き方の定着 (2) xii) 大学等におけるSociety5.0時代に向けた人材育成
・大学・専門学校等において数理・データサイエンス・AI分野等を中心とした産学連携プログラムの開発等を進める。

事業概要

専修学校等に委託を行い、各職業分野において今後必要となる新たな教育モデルを形成するとともに、各地域から人的・物的協力などを得ることでカリキュラムの実効性、事業の効率性を高めつつ、各地域特性に応じた職業人材養成モデルを形成する。

これからの時代に求められる多面的・重層的な諸課題に対応したプログラムの開発

Society 5.0等の時代に求められる能力（例：「IT力」を融合した専門的能力等）について分野毎に体系的に整理し、その養成に向けたモデルカリキュラムを開発する。

(5箇所×約15百万円)

地方創生に向けて、各地域課題の解決や発展に向けた将来構想を策定し、当該構想の実現に今後必要となる人材に必要な能力の養成に向けたモデルカリキュラムを開発する。

(10箇所×約11百万円)

学びのセーフティネット機能強化に向けて、高等専門学校と地域・外部機関等との連携を通じた実効的な教育体制（「**チーム高等専門学校**」）を構築する。

(モデル:5箇所×約17百万円)
(調査研究:1箇所×19百万円)

専門学校と高等学校、教育委員会等の行政及び企業が協働で、高・専一貫の教育プログラムを開発するモデルを構築する。

新規

(モデル:16箇所×24百万円)
(連絡調整会議:1箇所×約29百万円)

目指す成果

人材養成モデルの形成

社会に求められる人材ニーズに基づいた教育モデルカリキュラム

人材養成モデルの活用

開発したモデルカリキュラム等を活用し、全国の専修学校が自らの教育カリキュラムを改編・充実

専修学校と産業界、行政機関等との連携を進展させ、諸課題に対応した教育内容の充実を図ることで、**地域の中核的な職業教育機関である専修学校の人材養成機能を向上**